

創刊の辞

『大東文化大学史研究紀要』創刊にあたって

大東文化大学百年史編纂委員会委員長
中村 宗悦

今から約6年半後の2023年9月、大東文化大学は前身である大東文化学院創立から数えてちょうど百周年を迎えます。これまでもそれぞれの節目に際して『大東文化大学五十年史』『創立60周年記念軌跡』『大東文化大学七十年史』『心は放て天地間、まなこはさせ世の移り大東文化大学創立80年誌』『大東文化大学の歩んできた道』（90周年記念誌）などが編まれてきましたが、百周年を迎えるにあたり、これまでの大学史編纂事業の成果を踏まえつつ、資料編・本編を併せた百年史を編むことが決定されました。さらにこの百年史編纂事業と並行して本学の発展と日本の近現代史との関連を明らかにするための研究をおこなっていくことが企図され、このたび『大東文化大学史研究紀要』（年1回刊行予定）を発刊する運びとなりました。本紀要は、学内の教職員はもとより、広く内外の皆様からの投稿を受け付け、社会に開かれた研究の場になると同時に百周年後も継続的な成果発表をおこなっていくことを目指しています。

近年、多くの私立大学で自校史教育ということが叫ばれていますが、そうした教育の基礎には地道な研究が必要です。名門と呼ばれるような大学には早くからそうした自校史研究の機関があり、独自の学術刊行物も発行しています。また必要に応じて各種の研究会、シンポジウム、講演会などもおこなわれています。それらに比較すれば、残念ながら本学の場合、自校史研究への取り組みがまだまだ不十分だと言えるでしょう。百年史編纂委員会は歴史資料館の下、百年史編纂を主な任務として設置されていますが、今後は本研究紀要を中心にして、大学史分野のみならず広く日本の近現代史に一石を投じるような貢献をなし

ていきたいと考えています。

さて、本紀要創刊号には研究ノート2篇と資料紹介2篇、そして2014年に本学が応募したスーパーグローバル大学創成支援事業申請に関する報告を1篇収録しました。まず、宮瀧交二文学部教授による研究ノート「大東文化学院草創期の日本史教育について」は、大東文化学院の草創期における日本史教育の実態を実証的に明らかにしたものです。学院において日本史がどのように教育されていたかを明らかにすることは、とくに当時の学院の自己認識にも深く関わる視点であり、その意味で本研究ノートは大学史研究に重要な貢献をなしているものと思われます。続く谷本宗生大東文化歴史資料館・東洋研究所特任准教授による研究ノート「関係資料からみる大東文化学院の歩み－大東文化学院物語(九段時代)－」も、当時の学生がどのように学業に勤しみ生活を送っていたかが資料を通じて読み取ることができる興味深い内容のものです。2篇とも今後、研究論文に発展していくことが大いに期待されます。資料紹介は拙稿「大東文化協会設立に関する英国外交文書」および浅沼薫奈大東文化歴史資料館・東洋研究所特任講師による「『創立十周年記念 大東文化協会 大東文化学院 創立沿革』及び『創立十周年記念号 大東文化協会 大東文化学院』について」を収録しました。ご参照いただければ幸甚ですが、同時に追加の情報などもお寄せいただければありがたく存じます。最後の島垣修国際交流センター事務室事務長による「文部科学省の大学支援事業と大東文化大学－スーパーグローバル大学創成支援事業申請の経験から－」は、研究紀要に掲載される原稿としては異色かもしれません。しかし、歴史から様々な知見を学ぶと同時に、このようなまだまだ歴史とは言えないような「経験」も文書化しておくことは後世にとって必要不可欠だと考え、掲載いたしました。今後もさまざまなジャンルの投稿があることを期待しています。

2017年3月吉日